

クラス番号	324	担当教員名	堀場 純矢
テーマ	児童福祉機関・施設における子ども・家族への支援と職員の働き方		
著書・論文 研究課題等	<p>論文・著書：「児童養護施設職員のストレスと健康状態：20施設のアナケート調査から」『医療福祉政策研究』第4巻1号、「児童養護施設職員が働き続けられる環境づくり：インタビュー調査から」『総合社会福祉研究』第50号、「児童養護施設職員の働き方とコロナ禍の課題」『労働の科学』第75巻10号、『〈施設養護か里親制度か〉の対立軸を超えて』明石書店、『日本の児童養護と養育研半世紀の歩み』福村出版、『子どもと福祉』Vol.13, 明石書店、『社会的養護研究』Vol.1, 創英社</p> <p>研究課題：児童養護施設における小規模化の影響、児童養護施設職員の働き方</p>		

ゼミナール概要

キーワード：児童福祉施設、児童相談所、子どもの貧困・虐待、子ども・家族への支援、職員の働き方

目的・内容・方法：

近年、児童養護施設・乳児院などの児童福祉施設では、小規模かつ地域分散化（以下、小規模化）が進められています。とくに児童養護施設（以下、施設）では、小規模化が進むなかで家庭的な環境で子どもたちをケアすることができる一方、ホーム・ユニットごとに少人数の職員が分散して勤務することにより、子どもとのかかわりや職員の働き方が大きく変化しています。さらに、今後は施設の高機能化・多機能化（ケアニーズの高い子どもへの支援、里親支援、一時保護など）も進められていくこととなります。

そこで、このゼミではこうした状況をふまえて、①親が子どもを虐待するに至った背景に何があるのか、②施設で子どもと家族をどのように支援していくのか、③施設で職員が安心して働き続けるためにはどうしたらよいかなどについて学んでいきます。また、全国児童養護問題研究会全国大会（2022年度は名古屋開催の予定）、こどものしごとフェスティバルに参加するなかで、施設職員や施設経験者、他大学の学生との学習・交流をとおして、施設について体験的に理解を深めていきます。

その他、希望者を対象に、全国各地の先駆的な実践をしている児童養護施設・乳児院などの見学（京都、大阪、福井、静岡など）を行っています。ゼミではこれらの活動をとおして、卒業論文（以下、卒論）を完成させるとともに、将来、児童相談所・自治体福祉職や児童福祉施設で働くために必要な知識を身につけることを目的としています。

授業計画：

3年生の前期は、学生同士の交流を行った後、児童福祉に関するテーマごとにグループ分けを行い、グループ作業を行います。それと並行して、こどものしごとフェスティバルや全国児童養護問題研究会全国大会に参加するとともに、グループごとに乳児院・児童養護施設などに施設見学（希望に応じて児童相談所も）に行きます。後期は、夏休みの課題についての報告を行った後、児童福祉に関する専門誌（2021年度は『社会的養護研究』Vol.1, 創英社。購入補助有）をもとに、レジュメの作成・報告・意見交換などを行った後、卒論に向けての個別発表なども行います。

4年生の前期は、卒論の執筆・添削を行うとともに、ゼミで定期的に卒論に関する報告会などを行っています。そして、後期の初回に卒論の下書きを提出し、その後、添削や修正などを経て、卒論を完成させます。なお、希望者に対して、国家試験に向けた支援も行っています。その他、ゼミ生の希望に応じて、ゼミ合宿を行う場合があります。

※ゼミを希望する学生はエントリーシートに、①現在、関心を持っているテーマと概要、②卒業後に考えている職業（現段階）についても記載して下さい。また、可能であれば、大学図書館2階・雑誌コーナーにある『子どもと福祉』Vol.13（明石書店）または『社会的養護研究』Vol.1（創英社）を事前に読んでおいてください。

担当教員からのメッセージ



担当教員は児童養護施設の元職員です。このゼミは、①仲間と積極的に議論し、主体的に学ぶ姿勢のある学生、②将来、児童相談所や乳児院・児童養護施設・児童心理治療施設・母子生活支援施設などの児童福祉施設職員、公務員（福祉職・保育職など）として働きたいと考えている学生、③全国児童養護問題研究会全国大会や施設見学などに積極的に参加したいと考えている学生を歓迎します。メリハリのある、楽しいゼミにしましょう。